

◆NEW

在京の民放キー局5社の2009年9月中間連結決算が11月5日出そろった。予想通り、景気低迷の影響で広告収入の落ち込みが続き、キー局全5社とも減収という結果。前年同期が赤字だった日本テレビとテレビ東京の2社を除く3社は、なんと最終損益も減益となり、TBSホールディングスは赤字に転落してしまった。

TBSは、映画「おくりびと」がヒットした映像・文化事業や「赤坂サカス」などの不動産事業は堅調だったが、肝心の放送事業は低迷。視聴率の落ち込みから広告収入が激減、9000万円の最終赤字になった。しかも、同社は、通期でも29億円の最終赤字を見込んでいる。

広告の落ち込みは、テレビに限らず、メディア業界すべてに及んでいるが、各社とも番組スポンサーの広告は、十数%の大幅減となり、今後、それが回復する見込みは極めて厳しい状況にある。

比較的落ち込みが少ないのが、番組と番組の間に流すスポット広告だが、それも減少している。5月ごろから一時的に回復してきたが、それもゴールデンタイムの視聴率上位3位のフジ・メディアHD、日本テレビ放送網、テレビ朝日だけ。現在では、年末にかけての景気の二番底が懸念されるため、「12月以降は見通せない」状況が続いている。

[在京民放キー局の09年9月中間連結決算]

	売上高	経常利益	最終損益
フジ・メディアHD	2807 (▼0.4)	45 (▼70.2)	30 (▼
46.6)			

TBSHD －)	1 7 5 7 (▼1. 5)	3 4 (▼69. 5)	▼0. 9 (
日本テレビ 6 4 (－)	1 4 4 3 (▼12. 5)	1 0 3 (213. 9)	
テレビ朝日 1 6. 8)	1 1 2 5 (▼10. 1)	2 9 (▼25. 1)	1 0 (▼
テレビ東京 1 0 (－)	5 2 2 (▼12. 5)	1 6 (486. 6)	

(注) 単位・億円。HDはホールディングスの略。カッコ内は前年同期比増減率%。▼は赤字またはマイナス。日本テレビとテレビ東京は前年同期が赤字、TBSHDは前年同期が黒字だった。